

経済学研究科(企業経営専攻)の三つのポリシー

【 修士(経営学) 】

| | |
|--|---|
| <p>大学院の目的 (大学院学則 第2条)</p> <p>本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> | <p>経済学研究科(企業経営専攻)の教育研究上の目的</p> <p>本研究科は、経済学・経営学・法学という社会科学の主要な専門分野において総合的・学際的な教育・研究を行っている経済学部を母体として、より高度で現代的な教育・研究体制を備えることにより、地域の社会人に対して激変する現代経済社会の課題に対応できるような専門的能力・知識を修得するための再教育を行うと共に、大学卒業生及び外国人留学生に対して、高度の専門的能力と豊かな知識を身につけた人材を養成することを目的とする。 企業経営専攻においては、企業の経営戦略、企業会計、企業法務、管理科学などの分野について、現職の企業人の再教育も含め、高度な専門知識と創造的能力を備えた人材を養成することを目的とする。</p> |
|--|---|

| ディプロマ・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | アドミッション・ポリシー |
|--|--|---|
| <p>【修了認定・学位授与の方針】 企業経営専攻では当該専攻の授業科目を履修して、基準となる単位数を修得し、かつ、研究指導を受けた上で修士論文の審査及び最終試験に合格した者に、修士(経営学)の学位を授与する。本研究科で学位を取得した者は、下記の能力を持つ。</p> | <p>【教育課程編成方針】 企業経営専攻では、修了認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた4つの能力を修得できるよう、企業経営に関わる専門分野(経営学、会計学、商学、法学)の体系的な学修を可能とする教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 専門知識とともに、ディスカッションやプレゼンテーションの能力など、社会人として必要なコミュニケーション能力を獲得し、社会に貢献できる力を醸成できるよう、担当教員による研究指導を実施する。</p> | <p>【入学者受入れの方針】 企業経営専攻では、以下の能力を有する人材を求める。 1. 経済、経営、あるいは法律に強い関心を持ち、さらにそれに関する高度な専門知識や実践的応用能力を身につけ、地域社会や教育に役立ちたいと考える人 2. 学んだことを生かし、現在の地域社会が直面する課題を理論的かつ実証的に究明・解決すること強く希望する人 具体的には1. 日本ならびに、アジア諸国の民間企業において指導的役割を果たしたいと考える人 2. 地元の企業を成長させることで社会的に重要な役割を果たしたいと考える人</p> <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般入試 一般入試では、「志願理由書」と入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」と問題意識に沿った「論文」の提出、及び「口述試験」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。</p> <p>推薦入試 推薦入試では、入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」とこれに関連する「研究レポート」の提出、及び「口述試験」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。</p> <p>指定校推薦入試 指定校推薦入試では、「志願理由書」と入学後の研究の進め方を記述した「研究計画書」の提出、及び「口述試験」を課し、これらから学修意欲、問題設定能力、研究遂行力等を総合的に評価して多様な学生を選抜する。</p> |
| 【学修成果の到達指標】 | 【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】 | 【求める資質・能力】 |
| <p>基盤的能力</p> <p>【学修成果】 企業経営に関する基本的な知識と幅広い視点を修得し、経営現象の全体像を体系的に把握する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 企業経営に関する基本的な論点を関連諸分野と関係づけて理解し体系立てて説明できる。</p> | <p>【学修内容】 複雑で多様な経営現象を捉える上で必須の多角的で幅広い視点を身に付けるため、経営学、会計学、商学、法学の各専門分野の基礎概念、理論、学説、および方法論を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義形式の授業によって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。</p> | <p>【求める資質・能力】 幅広い知識や多角的な視点を修得する上で必要となる視野の広さと柔軟性</p> |
| <p>専門的学識</p> <p>【学修成果】 高度な経営学・会計学・商学・法学の専門的な知識と技能を駆使して研究を遂行する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 企業経営に関する研究文献・資料を正しく理解し、研究課題に適した調査・分析の手法を用いることができる。</p> | <p>【学修内容】 高度な専門的研究能力を身に付けるため、専攻分野の研究に必要な文献読解および調査・分析の知識と技能を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業によって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。</p> | <p>【求める資質・能力】 専門的な知識と技能を修得する上で必要となる基礎学力と学修意欲</p> |
| <p>倫理観</p> <p>【学修成果】 高い倫理観と社会的良識をもって研究を遂行する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 研究者倫理・行動規範に則って学術論文を作成できる。</p> | <p>【学修内容】 研究者が一連の研究活動(課題設定、調査設計、データ解析、文献・資料の引用、成果発表など)を遂行する上で遵守すべき研究倫理を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業担当教員及び修士論文の指導教員が個別に指導するとともに、富山大学研究者倫理・行動規範に基づき、教育・研究指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 修士論文が富山大学研究者倫理・行動規範に則って作成されているかを審査する。</p> | <p>【求める資質・能力】 倫理的に妥当で社会に受容される研究を遂行する上で必要となる誠実さと公正さ</p> |
| <p>創造力</p> <p>【学修成果】 現代企業が抱える経営課題の発見・分析・解決に役立つとともに、専攻する研究領域の発展・充実に寄与する独創的な研究を遂行する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 先行研究の展開を踏まえ、独創的で有用な学術論文を作成できる。</p> | <p>【学修内容】 独創的で有用な研究成果を生み出す能力を身に付けるために、現代企業が直面する様々な経営課題の発見・分析・解決に必要な知識と技能を学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・演習形式の授業によって学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 修士論文において専攻分野の研究課題の発見・分析・解決に寄与する新たな知見が提示されているかを審査する。</p> | <p>【求める資質・能力】 現代企業が抱える様々な経営課題を発見・分析し、それらの解決策を考え抜く上で必要となる洞察力と胆力</p> |